

第4回検討会 ワークショップまとめ

子どもにとって大事にしたい学校の条件

第3回のまとめ

- ・多くの個性(子ども、先生)と接し合うことができる
- ・一人ひとりの子どもが活躍できる
- ・先生の負担が少なく、子どもに目が届く
- ・安全で過ごしやすい環境
- ・部活動は、多くの中から選択できる
- ・多くの友だちができて、絆も深められる
- ・多様な学習を受けることができる
- ・クラス替えができ、人間関係が固定化しない
- ・活気ある学校行事ができる
- ・切磋琢磨できる

「子どもおしで」を追加

----- 第4回ワークショップで出た意見 -----

子どもたちについて

- ・子どもが子どもから学べる学校
- ・先生の質が上がる事による学生の学力向上
- ・人間関係・社会性を育成するためにも、クラス替えができ多くの子どもや先生と接しあう
- ・部活動の指導者も高度な指導ができる
- ・将来様々な選択(スポーツ、音楽、仕事)ような多様な学習や経験ができる
- ・地域(郷土)を愛せる学習、体験ができる
- ・一人ひとりの個性を伸ばせる
- ・多くの個性・友達→生活環境の異なる子供が集まる方がよい
- ・多くの個性→多様な学力の子どもがいた方がよい
- ・変化の激しい時代を生きる学力をつけるため、先生方かチームで授業づくりをして多様な学習を子どもに提供できる
- ・のびのびと自分を表現できる
- ・子どもたち自身の気持ちや思いはどうか
- ・思い出に残る特色ある学生生活
- ・社会の基本やルールを学ぶ

学校施設・設備について

- ・安全で健康に勉強のできる環境 4人
- ・子どもが十分に使用できる教育施設の充実 3人
- ・夢の持てる校舎。安全性、広い、明るい
- ・給食は学校で作ってほしい

通学・地域について

- ・安全に通学できる 3人
- ・地域全体の協力を得て地域で見守る 2人
- ・社会性育む。地域と多様な学びができる

その他

- ・学校行事の充実と保護者による協力確保
- ・小諸市を生きる子どもを育てる。小諸市の歴史・文化、人々の生活や仕事から自分の

望ましい学校の規模

【小学校】	1クラスの人数	委員人数	クラス数	委員人数	学校全体	委員人数
	18	1	2	1	240~250	1
	23	1	2~3	4	250~400	1
	18~23	1	3	9	250~600	1
	20~25	6	4	1	360~420	1
	25	2	2~4	1	430	1
	26.27	2	3.4	1	480	1
	28	2			480~600	1
	20~30	1			500	1
	30~35	2			600	1
	20~35	1				
	1.2年は20 3年以上は35	1				

【中学校】	1クラスの人数	委員人数	クラス数	委員人数	学校全体	委員人数
	20~30	1	4~5	1		
	30~35	2	5~6	3		

- ・子どもが少なくても副担任のような先生がほしい 2人
- ・教師も子どもも保護者も名前がわかる学校
- ・主体的な学習、一人ひとりが生きる学校
- ・友達同士の絆が深くなりそう
- ・子どもへの目が届きやすく学力向上も期待できそう
- ・クラスマッチなどの競技では2~4クラスが良い
- ・子どもの多様さの発揮
- ・教師がチームで取り組むことができる(これからの学校には教員の人数が必要)
- ・中には少ない人数のクラスや小規模校がいい子もいるのでは？(特別支援、生活支援員)
- ・小学校では授業以外(運動会、社会見学、作業等)の学習
- ・中学校では社会人生に向けての学習

第4回検討会で、「子どもにとって大事にしたい学校の条件」の実現に向けた「望ましい学校規模」は1クラス20~30人前後、1学年2~3クラス となりました。この数字で、学校全体の規模を計算すると240人(20人×2クラス×6学年)~540人(30人×3クラス×6学年)となります。また、話し合いの中では、「中には少ない人数のクラスや小規模校がいいという子もいるのでは？」という課題も出されました。